

アットシング

@Sing

Vol.14

新学社の教育情報誌

どう変わる？ 道徳の教科化と小学校英語

- 押谷由夫教授に聞く！ これからの「特別の教科 道徳」
- 小学校英語の「今」～新学習指導要領のポイントと移行期間について／小学校での授業実践例／教えて！阿野先生！ これからの中学英語Q&A



連載

教材活用講座

～資料集の活用で 新しい学習指導要領への対応を目指す

これからの「特別の教科 道徳」

2019年度から中学校でも始まる「特別の教科 道徳」。教科書が使用され、「考え、議論する道徳」への変換が求められ、評価も加わります。これからの道徳をどのように進めればよいのか、「特別の教科 道徳」の設置に深く関わられた日本道徳学会会長の押谷教授にお話を伺いました。



押谷由夫教授
1952年滋賀県生まれ。道徳教育、教育社会学、教育学が専門で、日本道徳学会会長。1988年文部省初等中等教育局小学校課教科調査官(道徳担当)、2001年教育課程課教育課程調査官、文部科学省「子どもの徳育に関する懇談会」委員、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会委員などを歴任。「特別の教科 道徳」の設置に際しては、文部科学省の専門家会議副座長、中教審道徳教育専門部会主査を務めた。現在は武庫川女子大学教授。

Q. 来年度からいよいよ中学校でも道徳の教科化が始まりますが、まずは教科化の意義・ねらいについてお聞かせください。

教科化についてはもちろんさまざまな意見がありました。基本的には道徳教育を充実させるという方向性がある。その方法として、教科化するほうがベターであろうということになりました。その背景はいくつかあります。まずは平成18年に改正された教育基本法です。その中で、教育によって一人ひとりの子どもたちが豊かな人生を送れるようにすることとされています。そのためには自分の生き方に関わって、しっかりと学びを進展させていける教育が必要です。道徳教育がその中核にならなければならぬというわけです。ところが、現実の学校教育を見ても、その要としてあるはずの道徳の授業がいかにげんなり形でなされている場合がある。学校や先生による取り組みの差が大きいという実態があり、それらを解消するためには教科化する必要があるということです。

教科化といっても国語や社会といった既存の教科と横並びの教科ではなく、道徳の特質(学校教育全体で行う道徳教育の要)を生かした教科化をしていかなければならないということから、「特別の教科」という枠を作って、道徳を位置づけています。

現在、道徳の授業がうまく行われていない背景として、サポートができていないということがあると思います。授業で扱う教材を先生方が自分たちで見つけてくるのは重要なことだけでも、先生方には時間的なゆとりもないし、適切な教材を選ぶのも難しい。しかしながら、副読本を持たせて指導に使っている学校は半分以下という状況です。これが、教科化されることによって、教科書が無償配布になり、指導の研修なども充実されていくでしょう。先生方をサポートしていく、先生方が道徳の授業を充実させることができるように後押しをするための教科化という面も大きいのです。

もう一つ大きな課題として、教育の目標に「人格を磨き、豊かな人生を送れるようにする」ということがあります。しかし、実際の子どもの世界では、問題行動やいじめなどが蔓延している状態になっていますね。そういう中で一人ひとりがどう生きていくかをしっかり考え、よりよい生き方を追い求めていくようになっていかなくてはならない。そのため「特別の教科 道徳」を設置して生き方について重点的に考える時間を確保していこうというねらいがあります。

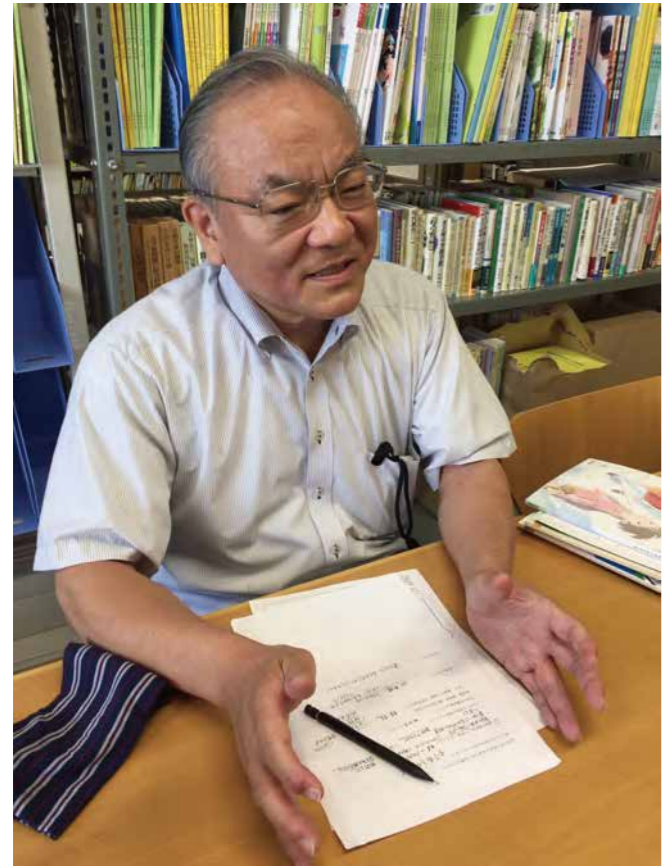
Q. では、これからは、配布される教科書をどのように活用して、どのように授業を組み立てていけばよいのでしょうか？カリキュラム・マネジメントも道徳が要と言われていますが。

先生方をサポートするものとして教科書や指導書が提供されることになりませんが、それに従うだけではいけないですね。道徳は生活がベースなので、生活を通して学び、そこから自分の未来を展望できる子どもたちを育てていかなければなりません。その

ため、全国の共通教材としての教科書とともに、学校独自、あるいは地域独自の教材を盛り込んで計画を立てていくことがカリキュラム・マネジメントのポイントになってきます。その取り入れ方はこれから大いに研究されていくと思いますが、学校の重点目標とか学校の特質とかに基いて、教科書を主としながら、それらをいかに盛り込んでいくかを考えていくことが重要になります。そういう課題が学校に課せられているとらえるかよいと思います。

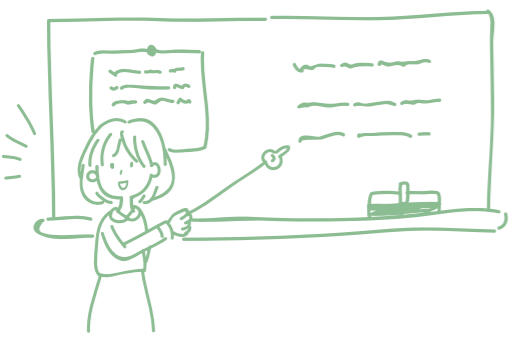
Q. それは、先生方が一人ひとりというだけではなく、学校全体で、ということですね。

そういうことです。学年ごとに検討して、学校全体の計画の中に位置づけていくことが大事です。特に中学校においては、各クラスの道徳をどうするか



Q. 他教科との関連はどのように考えればよいですか？

新しい学習指導要領の各教科等の目標は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の三つに関わって各教科の特質に応じて書かれています。教科固有の知識・理解を応用して思考力等を培っていくというのはその教科の見方・考え方を育成していくことと関わりがあります。ではその学びをどの方向にもっていくのか。理科なら理科の教育を通して子どもたちをどの方向に導いていくのか



か、どういう子どもに育てていくのか、そこが難しいところなんです。それは道徳で補うことができるとですね。教科の学習内容と道徳の内容項目をうまく関わらせることでどういう子どもたちを育てていくのかがわかってきます。逆に言うと、各教科固有の学びをしっかりやるためには、道徳でどういう学びをしているかをおさえておかないといけない。それは難しいことですが、道徳も教科書ができるので教科書を軸に連携をはかっていくことができます。たとえば、道徳の教科書に他教科の関連することをメモするなどをしていくことで教科と関わらせとらえていけるようになります。その発展で、郷土教材や学校で用意している教材も関わらせて取り組んでいくと、生活全体を通しての学びが具体化されていきます。これから、教科書や補助教材の役割が増してくるように思います。

Q. 補助教材はどのように活用すればよいですか。

教科書が配布されるということは、教科書は使わなくてはならないということですが、教科書をベースにしながら多様な学びを付け加えていくと考えてください。他の教科でも、教科書に準拠しながら別の資料を活用して授業をしています。たとえば、社会では教科書を参考にしつつ、自分たちの地域の調べ学習をしたりしますね。同じように道徳でも、たとえば22の内容項目を1時間ずつ一通り教科書で行い、残りの13時間は教科書を参考にしながら、郷土教材や他の教材を使うということもできます。教科書は1冊で学習指導要領の趣旨が反映されているものなので、無意に変えることはできませんが、学校の重点目標などについては補助教材を教科書以外からもってきて補うといった使い方は可能なのです。

Q. 教科書は主に読み物教材で構成されていますが、「考え、議論する道徳」をするにはどうすればよいですか。

中学生は、価値の大切さをすでにわかっている生活の中で価値意識と行動を結び付けて考えています。たとえば、「礼儀正しく」と言われたらきちんと挨拶をするという行動に結び付けて考えます。すでに価値意識ができているので、それだけを教えようとする、「礼儀正しく、わかっている」となってしまいます。ですから、「礼儀」の授業だったら、「礼儀とは何か」「相手への敬意の表し方にはどんなものがあるかな」と考えて、自分のこれまでの生活を振り返り、今後いろんな場面でもうしていかを考える。自分の生き方に結び付けて考える。そういう授業をするために、読み物教材の使い方の工夫が必要になっていきます。

新しい学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」、道徳では「考え、議論する道徳」ですが、議論するのは自分をより深く見つめられるようにというねらいなので、「考え、対話し、自分の生き方を深められる授業」を考える必要があります。

道徳で深い学びを考えると、50分の中で完結するのは難しい。道徳の授業はむしろきつかけくりだと思っただけ。「礼儀正しく」とも考えられるんだな、「礼儀正しく」とも少し考えてみないといけないな」ということに気づかせる。道徳の授業は心の対話ですから、授業の中で心が動く。心の動きを活性化させる。自我関与の授業をしていくことが基本だと思います。そして道徳は、授業の中で結論つけて終わるものではなく、授業の中で今後の生き方につながる課題がもてるようにするのです。そういう意味で、本当の深い学びは事後にある

のではないかと思っています。たとえば、講演を聴いてよかったと思ったら、それは入り口で、自分で調べてみようとか、実際にやってみようとか思っただけの学びになる。つまり、道徳の授業は授業で終わりではなく、課題意識をもって事後の生活や学習活動につながっていく、考えを深めていく、そういうきつかけくりなんです。今まで気づかなかったことに気づいて考え直す、考えを深めて、さらに行動に移していけるようになることが深い学びではないでしょうか。そのためには、気づきや調べたことを記録できるような道徳用のノートを持てるようにすることが不可欠だといえます。

Q. 「議論する」ということですが、実際には子どもたちから意見が出ていくということがあるのでしょうか。

道徳の教材にはテーマが重いものやいろいろなことを考えられるものがあり、50分の授業の中で考えを深めるには限界があります。事前に読ませて、ちょっと考えておくように投げかけておく。そのうえでの授業だと出てくる意見が多様になります。そういう手立てをしないと、50分だけの勝負では、文章を1回読んで2〜3の発問に対して自分の考えを書いて終わりということになってしまいます。事前に読んで情景を思い描いておくとか、事後に課題を与えるといった、事前事後にプラスアルファを考えるとより深まる授業になります。

Q. 1つの教材を2回に分けて行うことも考えてよいですか。

2回に分けることもよいですが、その場合は1週間空いてしまうので、その間にどういった働きかけをするかがカギです。その1週間何を考えさせる

Q. 授業のポイントをたくさん教えていただきましたが、もう一つ先生方が悩まれていることとして評価があります。

たしかに難しいと思われるかもしれませんが、先生方が日々努力されているのは「子どもたちがよりよく育つため」ですね。「子ども自身が自分をしっかりと見つめて自分の課題を意識し、課題を自分らしく追い求める」ための自己評価・自己指導、つまり子ども自身が自分を見つめて可能性を見出し、課題を明らかにして成長を実感しつつ取り組んでいる。そういう子どもを育てるのが道徳教育のねらいです。それをサポートするための授業をしているわけで、評価もそういうことをサポートする評価でなくてはならないということになります。

道徳の評価は子どもたちの個人内評価であり、他の子どもとの比較ではなくその子自身の中で伸びている・成長している姿、道徳性の伸びをしっかりと見取って、子どもたちに伝えていきたいと思います。子どもたちを勇気づけるようにしたいと思います。通知が出ています。そういう評価は、教育の本質に関わる評価観に基づいているという意識をもってほしいのです。今までの評価は、先生が教えたことを子どもたちがどれだけ理解し身に付けているかを主にしています。それも大切なことですが、道徳の評価は、子どもたちが本来持っている、よりよく生きようとする心にどれだけその子自身が気づいて伸ばしているかを評価しようということなのです。発想が逆なんです。与えたものをどれだけ身に付けたかではなく、本来持っているものをどれだけ子どもたちが引き出したかを見取って伝えていく。それを基に子どもたちが、「自分はこう伸びているんだ



と気づき、そこをpushしながら「もっとこのようにすることも頑張りたいのかな」というような自己評価・自己指導を高められるようにもっていかなくては。」

では、具体的にどうやって評価するかということ、実は先生方はすでにされているんです。ワークシートやノート指導のときに、子どもたちにコメントを付けて返していますね。そのときに、「よいところを書いて、それを続けていけばよいのです。さらに、毎時間、全員の学びの姿を先生自身のノートにメモする必要がありますが、難しいです。各時間5人分だけでもしっかり見てコメントを書くというようにすることを、子どもたちのよさを見つける。これを積



み重ねていく。それを見て、特によく伸びているところを通知表に明記するということです。通知表には大きくとりまとめたり（たとえば学期全体で、特に育っているところをピックアップして書くということ）になります。「特別の教科 道徳」ではこういう評価をするんだという認識をまず先生方が持たれて、さらには、子どもたちや保護者にも伝え、共通理解をはかっておく必要があります。

「大きく評価」を表面的にとらえると、抽象度の高いコメントになってしまいます。それを改善するポイントは、子どもたちの自己評価・自己指導です。自分を伸ばしていくことにつながるように、子どもたちの自己評価を重視します。たとえば道徳ノートに自己評価欄を設けて毎時間の自己評価を書いてもらうとか、カリキュラム・マネジメントで年間指導計画を立てるときに、学期ごとの道徳の授業を振り返る時間を設定して、一番印象に残っている授業とその理由を聞くようにする。そこで書かれたものがその子の心に一番響いたことですね。それを基に先生方の記録ノート、これは座席表にメモしておくなどでもよいと思いますが、そういったものと一緒に合わせて具体的にコメントしていく。そうすると多様な記述ができるし、先生方も評価しやすくなります。子どもたちも自分の心に響いたところを先生が書いてくれていると「ちゃんと見てくれているな」となります。自分のよさを見つけるのは難しいことです。人のよくないところは気になります。素直にその子のよさを認める・探すのも難しいですね。道徳の授業は自分のよさを見つけ伸ばすようにするための学習をする時間だと子どもたちに意識させる。そして、よいところを伸ばすにはどういう指導をすればよいかを先生方が考えて学んでいっていただければと思います。

学習指導要領のポイント 「特別の教科 道徳」

1 学習内容について

内容項目は、生徒が道徳性を発展させる関わりを

- A 主として自分自身
- B 主として人との関わり
- C 主として集団や社会との関わり
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わり

とおさえ、それぞれの関わりを豊かにするためのポイントを、全22の内容項目に整理して示しています。

2 学習の仕方について

学習指導要領では、「生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実すること」と書かれています。いわゆる「考え、議論する道徳」を目指しています。

3 評価について

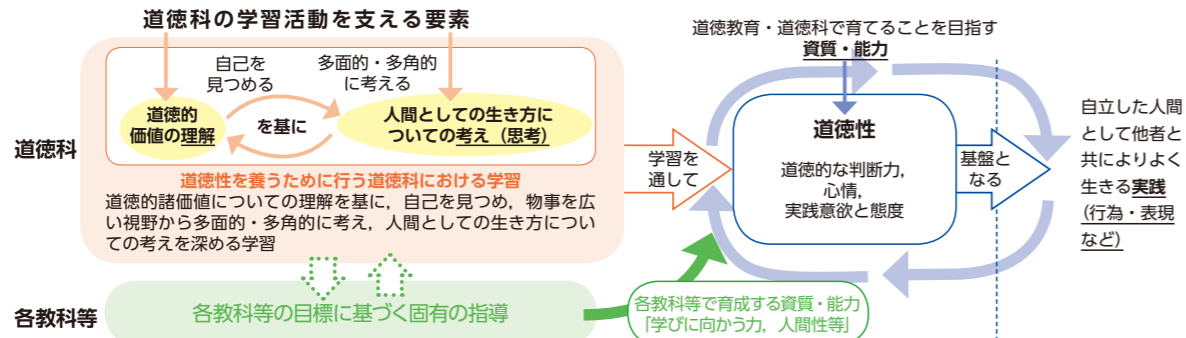
「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする」とされています。

また、内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりでの評価が求められます。

特別の教科 道徳の目標と育成を目指す資質・能力

目標 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から**多面的・多角的**に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度**を育てる。

中学校における道徳教育と資質・能力（イメージ）



（図は「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会第197号）の「別添16-2」をもとに、新学社編集部において作成。）

内容項目（キーワード）の整理

A 主として自分自身に関すること	B 主として人との関わりに関すること	C 主として集団や社会との関わりに関すること	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
[自主、自律、自由と責任] [節度、節制] [向上心、個性の伸長] [希望と勇気、克己と強い意志] [真理の探究、創造]	[思いやり、感謝] [礼儀] [友情、信頼] [相互理解、寛容]	[遵法精神、公德心] [公正、公平、社会正義] [社会参画、公共の精神] [勤労] [家族愛、家庭生活の充実] [よりよい学校生活、集団生活の充実] [郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度] [我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度] [国際理解、国際貢献]	[生命の尊厳] [自然愛護] [感動、畏敬の念] [よりよく生きる喜び]

（表は新「学習指導要領」（文部科学省告示）をもとに新学社編集部において作成。）

Q. では、最後に先生方へのメッセージをお願いいたします。

道徳教育は生きる喜びを追い求めるものです。道徳の授業を通して、先生方自身も充実感を味わってほしいのです。先生方がこの授業をどうすれば楽しめるかなと考えてみてください。よくアスリートが「楽しめました」と言いますが、観客と一体となって競技を行えたという実感を持ったからこそ出る言葉だと思えます。そういう子どもを想定して授業をしていこうと思ったら、事前に授業をあれこれと構想することが大事です。実践して、うまくいくときかないときがありますが、また次の授業でチャレンジしてということを取り返す。そういうところが先生方の楽しみになってほしいと思います。先生方はディレクターであり、俳優であり、小道具屋さんであり、演出家であり、コーディネーターでもあると思います。そういう気持ちで楽しみつつ取り組んでほしいです。

また、心にゆとりをもって相手の話を聞いてあげることが大事です。聞くことは新しい発見につながります。教える喜び、引き出す喜び、一緒に考える喜びなどを味わってほしいのです。引き出すには聞くことが大切です。普通に聞くのではなく「聴く」ですね。興味を持って尋ねることも大事です。聴くことを通じて心を通じ合わせる、そういうことを楽しんでほしいと思います。

先生自身が楽しみながら、型はおさえつつも型にはまらない多様な授業を展開されることを期待しています。

—これらどんな授業が行われるのか楽しみです。ね。本日はどうもありがとうございました。

どう変わる？
道徳の教科化と小学校英語
2

小学校英語の「今」

—新学習指導要領のポイントと移行期間について—

2020年度の小学校新学習指導要領全面実施により、高学年の外国語が正式に教科化される。中学年では外国語活動が始まり、日本の英語教育の大きな節目となる。

今年、2018年度春からは移行措置が開始。全国の小学校で第二学年から外国語教育がスタートしているが、今、小学校ではどんなことを学び、どんなことを大切にしているのだろうか。また、それによって中学校の外国語教育はどのように変わっていくのだろうか。

今回の特集では、小学校における外国語教育、とりわけ新しい教科となる高学年の外国語科に焦点を当て、新学習指導要領の実施によって小学校がどう変わるのか、また、移行期の2年間にどんなことが行われているのかを解説する。さらに、渡邊浩章先生(千葉県佐倉市立南志津小学校)の授業実践例を紹介する。最後に、阿野幸一先生(文教大学)からの、小学校英語を中学英語へつなぐヒントをお届けする。

観点と技能・領域

現行学習指導要領では、高学年の外国語活動の目標は次の三つを念頭に置いて作成されている。

- 1 言語や文化に関する体験的な理解
- 2 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
- 3 外国語への慣れ親しむ

しかし、新学習指導要領では、小学校・中学校・高等学校のすべての教科において、育成を目指す資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の視点で目標が整理されている。評価の観点についてもこの三つの柱が基軸となっている。

また、中学校外国語と同じく、小学校の外国語活動・外国語科でも技能と領域の整理が行われている。「話すこと」「読むこと」「書くこと」に分けられ、5つの領域に分けて目標が示されることになった。

中学年の外国語活動では「聞くこと」「話すこと」「やり取り」「読むこと」「書くこと」の3領域を、高学年の外国語科ではこれに「読むこと」「書くこと」を加え、5領域を扱う。下の表の通り、教科化する高学年外国語は目標のほとんどが「**できる**」という状態に「**できる**」という文末で終わっており、教科として「**定着**」させることが求められていることがわかる。

ただし、小学校外国語はあくまで音声中心であり、「読むこと」「書くこと」で扱つのは「**音声**」で十分に慣れ親しんだ簡単な単語や基本的な表現であることに注意しておきたい。

小学校外国語活動・外国語科の概要

時数について
中学年・外国語活動で週1コマ、年間35単位時間。高学年・外国語科で週2コマ、年間70単位時間。

領域について
中学年では「聞くこと」「話すこと」「やり取り」「読むこと」「発表」の3領域。高学年から「読むこと」「書くこと」が加わり、5領域に。

文及び文構造について
小学校では、「単文」「肯定、否定の平叙文」「肯定、否定の命令文」「疑問文のうち、be動詞で始まるものや助動詞(can, doなど)で始まるもの」、疑問詞(who, what, when, where, why, how)で始まるもの、「代名詞のうち、I, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの」「動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの」を扱うなど定められている。

語数について
文構造としては、「主語+動詞」「主語+動詞+補語」のうち、主語+be動詞+名詞代名詞形容詞、「主語+動詞+目的語」のうち、主語+動詞+名詞代名詞」を扱うなど定められている。

5つの領域別の目標		小学校中学年・外国語活動	小学校高学年・外国語	中学校・外国語
聞くこと		ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。 イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。 ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。 イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。 ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。	ア はっきりと話されれば、日常的话题について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 イ はっきりと話されれば、日常的话题について、話の概要を捉えることができるようにする。 ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。
読むこと		ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。 イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。	ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。 イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。	ア 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。 イ 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。 ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。
「やり取り」 話すこと		ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりできるようにする。 イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。 ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりできるようにする。	ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。 イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。 ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。
「発表」 話すこと		ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。 イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。 ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。
書くこと		ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。	ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。 イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

(上の表は新「学習指導要領」(文部科学省告示)をもとに新学社編集部において作成。下線等は編集部にて加筆。)

学習指導要領改訂スケジュール

	29(2017)年度	30(2018)年度	31(2019)年度	2020年度	2021年度	2022年度
				小学校全面実施		
				中学校全面実施		
					※年次進行で実施	
					高等学校	
平成17年度生まれ～	小6 (35)	中1	中2	中3	高1	高2
平成18年度生まれ～	小5 (35)	小6 (50)	中1	中2	中3	高1
平成19年度生まれ～	小4	小5 (50)	小6 (50)	中1	中2	中3
平成20年度生まれ～	小3	小4 (15)	小5 (50)	小6 (70)	中1	中2
平成21年度生まれ～	小2	小3 (15)	小4 (15)	小5 (70)	小6 (70)	中1
平成22年度生まれ～	小1	小2	小3 (15)	小4 (35)	小5 (70)	小6 (70)
平成23年度生まれ～	年長	小1	小2	小3 (35)	小4 (35)	小5 (70)

●…外国語活動移行措置 ●…外国語科移行措置 ●…中学校移行措置
※中学校の時数は現行と同様、年間140単位時間程度。
※生まれ年度はイメージとして示している。

(上の表は文部科学省「外国語教育における新学習指導要領の円滑な実施に向けた移行措置(案)」をもとに新学社編集部において作成。)

小学校でどう変わるの？

小学校外国語の教科化によって、具体的にどんなことが変わるのだろうか。ここでは、大きなポイントを三つ紹介する。

① 扱う語彙の数

文部科学省から高学年向けに配布されていたHi, friends!では、およそ400語が扱われていた。これに対して、新学習指導要領では小学校で外国語を学習する4年間のうちに、およそ600〜700語を扱うことになっている。ただし、この600〜700語という数字は「聞いたたり読んだりすることを通して意味が理解できるように指導すべき語彙(受容語彙)」と「話したり書いたりして表現できるように指導すべき語彙(発信語彙)」を合わせた数字であることに注意したい。つまり、600〜700語のすべてを、読めて、書いて、意味がわかるようにするというわけではない。また、具体的にどの語が受容語彙で、どの語が発信語彙か、という区別もはっきりとは示されていない。

中学校になると、小学校で扱ってきた600〜700語に上乗せして、さらに1600〜1800語を取り扱う。合わせておよそ2500語という数字は、現在の高等学校までで取り扱っている語彙の数とほぼ一致する。



③ 文・文構造

「代名詞のI, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの」「動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの」などが新たに加わる。

注意したいのは代名詞のhe, sheで、小学校段階での児童の発達を考慮し、複雑な文になることを避けるようにとある。文部科学省が作成した新学習指導要領対応 小学校外国語教材We Can! (以下We Can!)では、**助動詞canを用いること**や**三人称単数現在形のsが出現しないよう工夫されている**。

なお、小学校では**明示的な文法・語順の指導は行わない**。たとえば過去形なら「goの過去形はwent」という覚え方はしていないことに留意したい。

小学校→中学校へのつながり

小学校中学年	小学校高学年	中学校
「聞く」「話す」 2技能3領域	「聞く」「話す」 +「読む」「書く」 4技能5領域	「聞く」「読む」 「話す」「書く」 4技能5領域を総合的に扱う
600〜700語	600〜700語 + 1600〜1800語 =およそ2500語	
3人称主語 he / she 不定詞 want to 動名詞, 過去形などに触れる		左記+現在完了進行形, 仮定法など しっかり使って 定着まで求める

② 文字・字音(書くこと・読むこと)

●書くこと

書くこと 目標

(小学校学習指導要領 外国語より)

- ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
- イ 自分ことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

(傍線等は新学社編集部にて加筆)

まず、小学校でアルファベットの**大文字・小文字**をすべて書けるようになることが求められる。現在、多くの中学校で第一学年の初めに行われる文字指導に影響する可能性がある。

「A・I」の目標においても、**単語の綴りを暗記すること**は求められていないという点に注意したい。

「書くこと」の指導に際し、小学校では四線の幅やアルファベットの筆順(アルファベットには明確な筆順が存在しないので、一般的な書き方の例)にさまざまな工夫が施されている。この点も中学校での文字学習に影響を与えることになるだろう。

なお、小学校中学年の国語科では、ローマ字が引き続き取り扱われる。学習指導要領改訂後も、国語科では訓令式ローマ字を中心に学習する。



▲移行期の小学校で使われている4線と書体の例

小学校外国語で大切にしたいこと

ここまで、学習指導要領の改訂によって小学校がどう変わるかを見てきた。ここからは、小学校外国語の指導のポイントを、二つのキーワードを通して見ていくことにする。

① コミュニケーション

小学校外国語活動から中学校外国語科までの目標を並べて示した。傍線部分以外は全く同じことが書かれていることがわかる。この7年間を通して、コミュニケーションに関する**資質・能力**を育てることが外国語全体の目標となっている。

小学校 外国語活動

(小学校学習指導要領より)

第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による「聞く」「読む」「話す」「書く」の言語活動を通して、**コミュニケーションを図る素地となる資質・能力**を(中略)育成するようを目指す。

小学校 外国語

(小学校学習指導要領より)

第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による「聞く」「読む」「話す」「書く」の言語活動を通して、**コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力**を(中略)育成するようを目指す。

●読むこと

読むこと 目標

(小学校学習指導要領 外国語より)

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

(傍線等は新学社編集部にて加筆)

目標をよく見ると、**AとIで「読む」という言葉の意味が異なることに注意したい**。Aでは文字を「読み上げる」と、Iでは意味を「読み取る」ことを意味している。

また、Aにある「読み方」とは、アルファベットの名前のことを指している。しかし、Iの目標について、解説では、文字の音の読み方も意味を推測する手掛かりとなるとして、文字の音についても指導することとされている。なお、発音と綴りを関係づける(いわゆる「フォニックス」)指導までは、小学校では求められていない。



中学校 外国語

(中学校学習指導要領より)

第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による「聞く」「読む」「話す」「書く」の言語活動を通して、**簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力**を(中略)育成するようを目指す。

(傍線等は新学社編集部にて加筆)

また、「コミュニケーションの対象については」学習に向かう力、人間性等」の目標に反映されている。中学年外国語活動におけるコミュニケーションの対象は「相手(＝目の前の人)だが、高学年外国語科では「他者(書いたものは目の前の人以外にも触れるので、目の前の人(クラスメイト)になり、中学校になると「聞き手、読み手、話し手、書き手」と具体化される。段階的にコミュニケーションの対象が変化することが示唆されている。

さらに、We Can!では、**即興性のあるやり取りを行う言語活動として「スモール・トーク」**が設定されている。既習表現を繰り返し使って定着を図るとともに、1〜2分程度の会話を続けるための表現(相づち、繰り返しなど)を身につけることに着目する。単調な練習ではなく、英語で伝え合う必然性のある言語活動を通して、「コミュニケーション能力の素地・基礎を育てることが大切である。

連載企画

教材活用 講座

第4回

資料集の活用で
新しい学習指導要領への
対応を目指す

この連載では、全国各地の中学校でお聞きした、補助教材を活用しながら、生徒のみなさんの学力向上に向けて工夫されている取り組みをご紹介します。

第4回目となる今回は、国語・社会・理科の資料集の活用方法について、調査・取材をさせていただきました。

特に、新しい学習指導要領で重視されている資質・能力の育成に向けた学び方を、いかに授業に取り入れていくかについてまとめております。教科ごとに、アンケートや調査の結果と、先生方が工夫し、実践されている授業展開の例や効果的な資料集の活用方法などをご紹介します。



小学校英語COLUMN

教えて！
阿野先生！

これからの 中学英語

—小学校英語とのつながりを考える—

NEW HORIZON (東京書籍) の著者である、あの阿野幸一先生に、小学校英語と中学英語をつなぐためのヒントを聞いてみました！

Q&A

Q 来年度の中学1年生(現在の小学6年生)は、4月の導入で、どのようなことに気をつければよいのでしょうか？

A 現在の小学6年生の児童は、外国語(英語)の教科化を踏まえた移行期として学習しています。教材も We Can! 2やHi, friends! 2を使って、年間で50時間から70時間程度の授業を受けてきます。またこの児童は、小学5年生のときにも週1時間程度の外国語活動を受けていますので、これまでの中学1年生よりも多くの量の英語に触れてきていることになります。しかし、明示的な文法指導を受けているわけではないですし、書くことについても「書き写す」というレベルの活動と考えていいでしょう。We Can! では場面の中で一つひとつの表現が紹介され、なんとなく意味を理解してきています。中学校でも、まずは場面を大切にしましょう。ポイントは「場面別シラバス」で進む小学校での学びを受けたうえで、系統的に学ぶ「文法シラバス」の中学校の教科書の特徴を生かすこと。複数の文法事項(例えばbe動詞と一般動詞など)を対比して使うことで、意味や使い方の違いを知り、音と文字と意味を結びつけ、生徒が表現できるようになるために練習を行うことが重要です。



あのこういち
阿野 幸一 (文教大学)

文教大学国際学部国際理解科学科長。早稲田大学大学院教育学研究科英語教育専攻修士。専門は英語教育(主に小学校・中学校・高等学校での指導方法)、応用言語学。埼玉県立高等学校・中学校、茨城大学を経て、現職。大学では英語教員養成を中心に担当。著書は、文部科学省検定教科書「NEW HORIZON English Course1・2・3」(共著・東京書籍)、「NHK基礎英語 使いこなし 中学英文法」(NHK出版)など多数。NHK Eテレ「NHK 高校講座 コミュニケーション英語1」(2017年度～)講師。

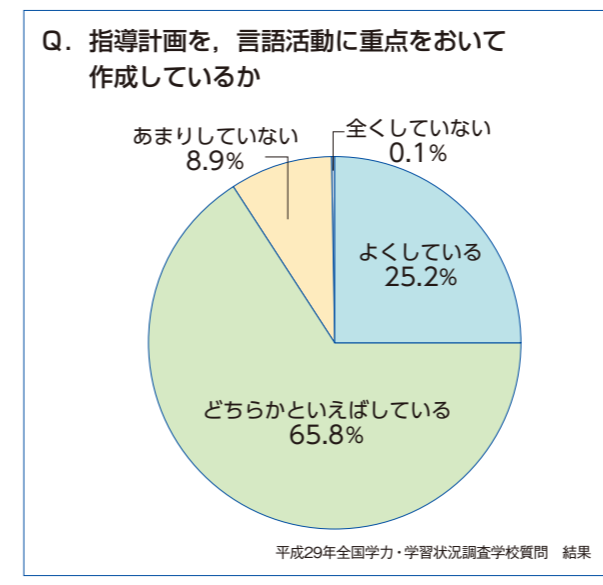
Q 小学校で、canやwant to、過去形などにも触れていますが、中学では、1年の最後や2年で学習するので、間が空いて忘れてしまいそうです。何か効果的なふり返りのアイデアはありますか？

A 助動詞のcanは、小学5年生で使用するWe Can! 1で多く触られるため、来年度の中学1年生は、小学校でそれほど多くのcanを使った文に触れているわけではありません。また、want toや過去形も表現としては触れてはいますが、小学校の段階では、適切な場面で自ら使えるようになっているわけではありません。しかし、小学校での学びを生かさないのはもったいないですね。まずは、小学校でどのような場面での使い方に触れてきたか、過去形であればどのような動詞に触れてきたかを知るために、We Can! 2の「指導編」で表現とその使用場面を見てみることをお勧めします。これと似たような場面を導入をはかることで、小学校でのインプットを中心とした学びを思い出す機会を設け、自己表現(アウトプット)をできるようにするための練習を重ねていくようにしましょう。

「資料集」を活用して 新しい学習指導要領が求める学びを 国語科編へ

2021年度完全実施の新しい学習指導要領の国語科においては、言語活動を通じた言語能力の育成がますます重視され、**語彙指導、情報の扱い方に関する指導、我が国の言語文化に関する指導、読書に関する指導**についての改善と充実などが求められている。

新しい学習指導要領で求められる国語の授業を、先生方はどのように実施されるのか、言語活動を取り入れた授業づくりにはどのようなものがあるのかについて、今回は特に、資料集を活用した実践例を中心に、公開されている調査結果や弊社で行った学校調査の結果とともにまとめる。



① 国語の資料集の活用場面

- 活用場面 TOP3
1. 古典
 2. 言語事項
 3. 表現

※これらの次によく使われているのは、「詩歌」と「戦争」でした。(2017年 弊社調査)



1. 古典
 - 作品そのものへの理解を深める際に使う。(東京)
 - 季節感・時間、太陽暦・太陰暦など、古典の世界の基礎知識については、教科書にまとまった記載がないため、資料集で補う。(石川)
 - 歴史的仮名遣いの説明のときに資料集を使う。(愛知)
 - 教科書に現代語訳が載っていない古文については、資料集の現代語訳を活用する。(奈良)
 - 教科書に載っている古文と現代語訳を見比べ、訳し方の違いを考えさせている。(石川)
 - 古典全般で使っている。たとえば、「平家物語」だと、鑑の説明をするときなど。(三重)
 - 入試対策として、資料集の古文を読ませる。(茨城)

② 言語事項

- 言語の単元は、資料集をテスト範囲に入れて、学習させている。(三重)
 - 長期休暇の課題として、資料集の言語ページを出す。(山形)
 - 書く指導の際に、語彙を補充するために言語のページを使う。(栃木)
 - 入試対策として、言語のページを使っている。(大阪)
3. 表現
 - 「原稿用紙の使い方」について、特に1年生のときは、資料集を見せながら、資料集記載のルール通りに書かせるようにしている。生徒が安心して書けるので、指導がしやすい。(埼玉)
 - 鑑賞文の書き方などを指導する際に使っている。(岡山)
 - 職場体験のときに「手紙の書き方」のページを参考にしながら書かせている。(山形)
 - 話し合い活動の前に、手順を確認するのに使っている。(石川)

このほかに、「詩歌の創作」「詩歌の表現技法の確認」「戦争の教材で時代背景をイメージさせる」などの使い方が多くみられました。



② 資料集を使った、新しい学習指導要領が求める学びの実践例

言語活動

書く力アップ

鑑賞などの「文章の書き方」を資料集でまず確認する。
書いたあとも、資料集の「原稿用紙の書き方」「表現技法のまとめ」のページを参照し推敲の時間を取る。

俳句の創作

資料集の季語のページで使いたい季語を選び、各自で俳句を創作する。俳句の基礎知識や表現技法のまとめ、作り方のページも参照するように指導する。

言語文化

詩歌の調べ学習

教科書に解説の載っていない短歌の、作者・時代背景・歌の内容・表現技法などについて、資料集を使ってグループで調べ学習を行う。調べた内容はグループごとに発表する。



「竹取物語」と「かぐや姫」の比較

「竹取物語」と「かぐや姫」について、共通点と相違点を意識しながら比べ、時代背景や古文の内容について、資料集などを使って調べる。各自で調べた内容をグループでまとめ、3～5分で発表する。

オリジナル「枕草子」作り

資料集に載っている「ものづくし」の章段の例を読んで「ものづくし」を理解し、各自でオリジナルの「ものづくし」を創作する。
画用紙に清書し、イラストや写真を添えて完成。

和歌の特徴を考える

「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の和歌について、それぞれにどのような特徴があるかを考えて分類する。分類ができれば、歌集ごとにどのような分類の特徴がみられるかを検討し、資料集に載っている三大和歌集の比較表と見比べて理解を深める。

読書指導

本のポップ作り

資料集に載っている作品などから紹介したい作品の一つを選び、ポップを作成する。
資料集には、本の紹介に役立つ情報(ポップの作り方、本の帯の作り方など)が載っているので、それも参考にする。



語彙指導

故事成語で4コマ漫画作り

資料集に載っている故事成語の中から一つを選び、故事成語の意味が伝わるような起承転結のある4コマ漫画を考えて書く。
完成したらグループで読み合っ、感想を交流する。



語彙力アップ

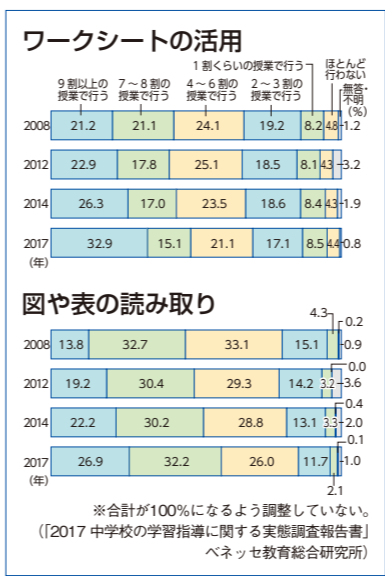
資料集に載っていることわざや故事成語の中から座右の銘にしたい気に入った言葉の一つを選び、短冊に記入。
一人ずつ理由とともに発表する。

資料集でさらに進化！ 「主体的・対話的で深い学び」に向けて、社会科編

2021年度完全実施の新しい指導要領に盛り込まれている、「主体的・対話的で深い学び」や、育成を目指す資質・能力の3つの柱のうちの「思考力、判断力、表現力等」に関連して、社会科では、資料を活用する能力がさらに重視されている。学習の過程で、課題を見出したり、考えを深めたりするための論拠として、これまでに以上に「資料」の必要性が高まっている。

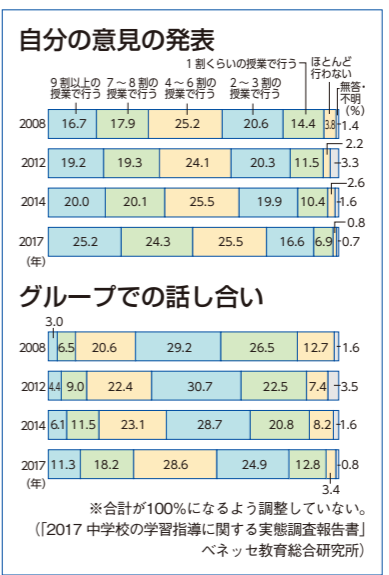
それを受けて、社会科の先生方が、授業の中で資料集をどのように活用されているのか、特に「主体的・対話的で深い学び」に向けた取り組みを中心に、公開されている調査結果や弊社で行った学校調査の結果をまとめる。

社会科の授業に取り入れる頻度が高まっている学習活動



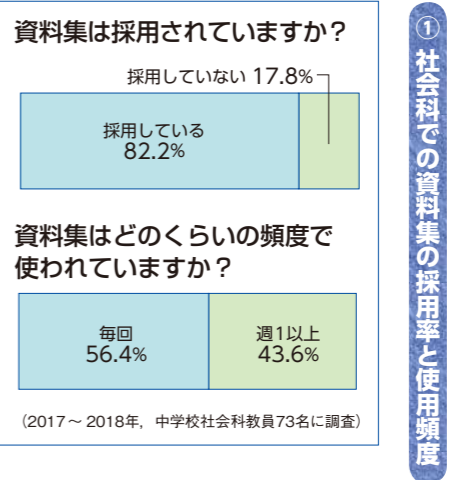
社会科の授業における「図や表の読み取り」活動は、99%の先生が導入し、約60%の先生が、7割以上の授業で取り入れている。

社会科以外も含めた学校全体での取り組みとしては、「生徒どうしで話し合いながら進めていく」授業の導入率が92.9%、「考えたり調べたりしたことを工夫して発表する」授業の導入率が93.6%となっている(2017年)。



資料集の採択・活用状況

近年授業への導入が特に増えている「図や表の読み取り」活動や「話し合い」等の活動に関連して、資料集の採択・活用状況について、独自に学校調査を実施した(2017年~2018年)。以下はその結果をまとめたものである。



資料集をよく使用する授業の場面

地理

教科書にない統計資料を使って比較させるために使うとの声があった。諸地域学習の最初に地形を把握させるのに資料集を使用する、授業の導入で生徒の興味をひきやすい資料や写真を提示しているという声も。資料集に組み込まれている作業要素を使っているかどうかは、意見が二分。

歴史

□頭説明や教科書の文章ではわかりにくい内容の図解や、地図化した資料、年表などを、授業中の解説・説明の際に、理解促進のための補助資料として使用。教科書の年表だと内容が粗いので、資料集の年表で

できごとを整理させる、各時代の文化の写真は教科書よりも豊富なので、特によく使用するなどの声も。また、使える資料に限られる古代よりも、さまざま観点の資料がある近現代のほうがよく使うとの意見もあった。その他、修学旅行前の学習でも使うとの意見も。

公民

授業中の解説時の補助資料としての他、調べ学習にも使用。公民の授業は知識の解説だけだと単調で理解しにくいいため、資料集から生徒にとって身近な例や最近の話題を必ず示すという声も。授業以外で、生徒会での取り組みの参考資料に使っているという意見も。

③ 「主体的・対話的で深い学び」や話し合い活動の実践

取り組み状況

調査を行った学校では、半数以上の先生方が話し合い活動を行っており、また、「主体的・対話的で深い学び」の実践についても、「行っている」か、または「今年度から行いたい」との回答であった。具体的なご意見は以下の通り。

〈実践に積極的な先生方のご意見〉

- ジグソー学習(1つの学習課題をいくつかのテーマに分け、生徒がそれぞれのテーマについて調べてグループを持ち寄り、共同して課題解決に取り組む学習法)を行っている。地理は単元の最初に調べ学習をやっている。(愛知)

- どんな内容でも話し合いをするという訳にはいかないが、毎回実施は難しいが、学期に1回のアクティブラーニング型の授業と、2~3時間に1回のグループでの話し合い活動は盛り込んでいる。(茨城)

- A1の授業では、資料を提示して読み取れることを言語化させる。それを班で共有して、説明する力や資料を深く読み取る力をつけさせたい。いきなり複数の資料を読み取るのは難しいので、まずは1つの資料の読み取りから始めればよい。A1的な授業は多くて学期に1回程度だろう。(愛知)
- 小さな話し合い活動は毎回実施。月に3回くらいはアクティブラーニングを取り入れている。(滋賀)
- クラスで1冊の「新聞ノート」を作成し、それを使って毎時間小対話を行っている。その日の当番の生徒が前日までに「新聞ノート」に新聞記事の切り抜きを貼り、記事の要約と自分の考えを記載。授業の冒頭5分程度で当番の生徒が発表し、生徒同士で質問をし合う。できるだけ、そこで出た話題から授業に入るようにしている。(東京)
- 授業の展開部で、「なぜ」で始まる問いを出し、まずは個人で考えさせ、次にグループで共有させ、全体でまとめと解説をしている。この問いについては、必ず定期テストでも出す。授業と定期テストを有機的につなげ、授業に真剣に参加していたら、問題が解けるようにしている。(東京)
- 地理資料集の図版を投影して、まず解説。生徒にはメモを取らせる→メモをグループで整理し、発表させて、その際に資料集を読ませる→最後に先生がまとめる。(大阪)
- 歴史資料集に掲載されている資料や文章の読み取りを5~15分行っている。ホワイトボードにグループで考えたことを書かせる。(愛知)
- 話し合いの時の資料を歴史資料集から引用している。教科書のみでは足りない。(愛知)
- 公民で、自分たちの市が抱える課題を解決する、というテーマでアクティブラーニングの授業を行った。(三重)

- 3年2学期のパフォーマンス課題として、公民で「アジアに工場を作るならどの国がよいか」というテーマで授業をできないか考えているところ。何の工場にするかによっても判断が異なってくる。資料集めに時間がかかるので、資料集にそのような授業ができる資料を集めた特集ページや、授業に使えるワークシートがあるとよい。東書の教科書の「コンビニの経営者になってみよう」は、とてもよい題材だと思うので、そのような題材があると助かる。歴史は難しいかもしれないが、地理・公民の資料集には入れてほしい。(広島)
- 全く考えていない。知識がないと、何も始まらないと考えている。(山形)
- 個々の力があってこそそのA1なので、社会科が苦手な子や話し合い活動が苦手な子へのフォローが課題である。(三重)
- 実施したいが、時間がない。どうしても3年生は入試優先になる。「授業中に全て覚えなさい」くらいの気持ちで授業をやっている。(三重)
- やらなくてはならないと考えているが、やり方がよくわからない。(大阪)
- 教科書や資料集の資料から子どもたちに考えさせるような授業として、アクティブラーニングを行っているが、歴史では取り組み頻度が低い状況。歴史はなかなか難しい。(三重)
- 歴史はやりにくい。(三重)



主体的・対話的で深い学びに向けた実践をされている先生にお聞きしました！ 1

主体的・対話的で深い学びの実践について、具体的な単元で、どのようにされていますか。

地理的分野では、地理的事象やその背景を、なるべく地図帳から探させるようにしています。ほとんどの答えは地図帳から読み取れるといっても過言ではありません。地図から自ら読み取ったことを意味付け解釈し、結び付けて説明できるような授業を意識しています。また、過去にはアジア州を州内の地域別に区分し班に割り当て、生徒自らが授業者となる生徒授業の形で授業を行いました。

公民的分野では、財政の配分の在り方や、人権と人権が対立する場面など、複数の意見が対立しているものについて議論する場面を取り入れることを意識しています。また、模擬選挙を取り入れ、選挙の仕組みや候補者が選ばれた後の流れを体験的に学ばせています。

対話型の授業を実践される時、教科書や地図帳以外の教材を使われますか。使われる場合、どのような資料をどのような場面でも使いますか。

資料集などに掲載されている資料を、自分の考えの根拠として使用させることはよくあります。また、人口や財政などについて、統計や白書などから具体的な地域の最新データをもってきて生徒に提示することもあります。また、生徒が作成したレポートを発表したり相互評価し合ったりするような授業では、生徒の

作品が教材となることもあります。生徒同士で作品を見せ合う場面では、互いに興味深く内容を読んでいる姿が見られます。

対話型の授業を実践される時、

a) 生徒の興味付けや、生徒に「自分で」として主体的に課題をとらえさせるために、工夫をされていることはありますか。その際、「資料」の提示や配付をされているのであれば、具体的にどのような資料を使われていますか。

生徒が自分のもつ知識や言葉で「語れる」ことが対話を生み出す基本だと考えます。まずは教師が分かりやすい言葉で説明したり、問いを投げかけたり、自分自身に関係があると思えるような資料を見せたりすることが大切ではないでしょうか。また、一斉授業の中でも小さな問いの積み重ねで授業を作っていくことで、双方の授業者ができると思います。また、生徒同士の対話型の活動では、教師による、生徒同士の対話を批判的に揺さぶるような問いや資料の提示が必要ではないかと思っています。

b) 活発な話し合いができるように、工夫されていることはありますか。また、学びの深まりのために工夫されていることはありますか。

先ほどと重なりますが、教師が生徒の思考を揺さぶるため、根拠を確認するよつな質問を行ったり、他の生徒の考えを紹介し、新たな側面に気付かせたりする工夫が必要だと思っています。また、最近では、「ロイノート」というソフトを使って、タブレット上で相互の意見を比較したりすることも取り入れ始めました。使い慣れてくると、とても簡単に比較や結び付けの作業ができるようになり、生徒の意見を集めることも簡単にできます。

主体的・対話的で深い学びに向けた実践をされている先生にお聞きしました！ 2

主体的・対話的で深い学びの実践について、具体的な単元で、どのようにされていますか。

例えば、先日行った2年生歴史の授業では、近世の「幕府政治の展開」の単元で、幕政の改革に関わった6名の人物について、6人×6グループによるジグソー学習を行いました。導入に1時間、グループでの調べ学習とジグソー学習用の説明原稿・レジュメ(要点をまとめた配付資料)の作成に3時間、ジグソー学習に1時間、まとめに1時間の構成。最後のまとめの時間では、6名の幕政改革についてみんなで調べた内容を踏まえて、ワークシート上で6名の人物をリーダーチャートで評価させ、一番優れた政治家を選ばせました。「選挙」を意識して活動に加えたのですが、意識的に、歴史の授業に歴史を学ぶ意義や公民とのつながりの要素を組み込んでいます。

例に挙げた授業では、教科書・資料集を土台にしながら、司書教諭に依頼し、事前に調べる対象の人物について載っている書籍を集めてもらいました。調べ学習のうち、最初の1時間は、教科書・資料集・書籍からのみ調べさせ、次の時間を以降にインターネットを使わせました。

特にレジュメの作成には、資料集をよく使います。教科書よりも詳しい資料やまとめ図があり、教科書とは違う視点の異説などが生徒の参考になっているようです。

対話型の授業を実践される時、

a) 生徒の興味付けや、生徒に「自分で」として主体的に課題をとらえさせるために、工夫をされていることはありますか。その際、「資料」の提示や配付をされているのであれば、具体的にどのような資料を使われていますか。

歴史学習の授業開きでは、必ず歴史学習の意義を書かせるようにしています。歴史を学ぶことで、未来を予測する土台が作られ、未来をよりよくできることに気付かせたいと考えています。

生徒の主体性を引き出すという点では、できるだけ学習内容そのものに興味を持ってもらえらるような前振り的心がけています。例えば、「市民革命が起こるとき共通点は？」と疑問を投げかけ、「その共通点から、これから革命が起こる国が予測できるかも？」と伝えるなどです。

b) 活発な話し合いができるように、工夫されていることはありますか。また、学びの深まりのために工夫されていることはありますか。

話し合いの活性化に向けて、対話型の学習に「ゲーム性」をもたせることもあります。例えば、明治の諸改革について、6つの改革についてグループごとに調べさせ、どのグループが調べた改革が最も「日本の近代化」に強い影響を与えたか議論させました。自分たちのグループで調べている改革がより強い影響を与えたと証明できるように、生徒たちは一生懸命論拠を探していました。

主体的・対話的で深い学びについて、評価はどのようにされていますか。(授業中・定期テスト・ポートフォリオなど)

毎時間、すべての活動を評価することは難しく、私も研究途上ですが、あらかじめ教師が設定したルーブリックなどの規準に照らして小レポートなどの評価資料を分析することや、生徒同士の相互評価を参考にして評価することが多いです。また、ノートに自分の考えを書かせるなどさせて、身近なポートフォリオとして活用しています。

その他、資料集の活用場面や活用の工夫、アドバイスがあれば、ご教示ください。

教科書に対応した見開きを使うことが多いと思いますが、意外と他のページに関連した資料が掲載されていることもあります。日頃から教師自身が意識して資料集を見ておくことが必要だと思っています。

〈取材協力〉お茶の水女子大学附属中学校 渡邊智紀先生



対話型・活動型の授業には、「まとめ」「振り返り」が不可欠だと考えます。冒頭で例に挙げた授業では、最後に、幕政改革を扱ったマンガのセリフを穴埋めさせる作業をさせたのですが、この作業をグループで作成した「レジュメ」をもとにやらせることで、自分たちの作業が「みんなの役に立っている」という達成感を生徒が得られるようにしました。

学びが深まったかどうかは、いかに「見方・考え方を働かせていたか」と関連すると考えます。例の授業では幕政改革に関わる人物を評価させるうえで、社会的な背景を視点に加えて因果関係を意識させたり、人物同士の類似や差異を比較させたりするようにしました。

また、調べ学習も話し合い活動も、そして社会科の学習内容においても、いずれも3年間の系統を意識し、公民の学習につながるよう授業の組み立てをしています。

主体的・対話的で深い学びについて、評価はどのようにされていますか。(授業中・定期テスト・ポートフォリオなど)

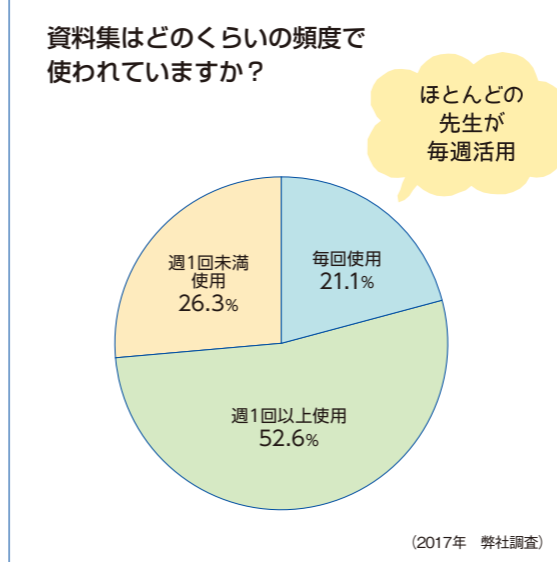
「知識・理解」は小テストや定期テストで、「技能」はレジュメや発表用原稿の作成やプレゼンの様子で、「思考・判断・表現」は、最後にまとめたとして記述させるワークシートを中心に評価しています。ワークシートでは、学習内容が正確におさえられているか、意見の根拠が適切に表現できているかを重視します。また、授業内での生徒の様子を評価する場合は、必ず事前に授業内評価をすることを予告し、その時間が終わってから形成的評価として生徒にフィードバックをしています。

〈取材協力〉東京都品川区立東葉の杜学園中学校 金城和秀先生

新学習指導要領で重視される「理科の学習と日常生活との関連」を資料集で強化！

2021年度に完全実施となる新しい学習指導要領では、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を深める観点から、理科の学習内容を日常生活や実社会と関連づけることが重視されている。その実現には日常生活や実社会との対応事例をできるだけ多く生徒に伝えることが求められる。その一つの手段として、資料集を活用した授業を行うことが有効と考えられる。今後の授業改善に向けた資料集活用のヒントとして、2017年に弊社で実施した資料集の使用実態調査から使用事例を紹介する。

① 資料集の使用頻度



② 資料集の使用目的と使用場面

資料集を使う目的は何ですか？

- 教科書の補足
- 生徒の興味付け

ほとんどの先生が上記の目的。

資料集はいつ使われますか？

- 前時の復習（授業の導入）
- 実験装置の確認（授業の導入）
- 単元のまとめ

という意見が多数。

(2017年 弊社調査)

資料集の図や写真は、教科書より詳しくかつ大きかったりするので、理解が深まります。

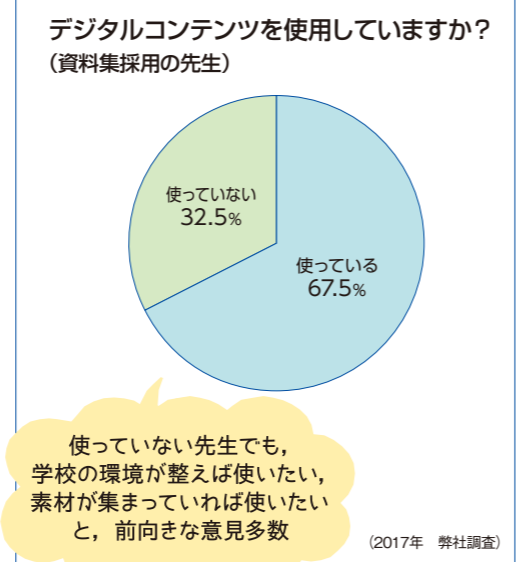
発展的な内容で教科書の扱いが小さいものが、資料集では詳しく扱われていたりするので、生徒に説明しやすいです。

先生に聞いた！ 資料集でよく使う単元は？

- 植物…身近な植物の一覧（図鑑的）、いろいろな植物の例、極端な植物（サボテン）など。
- 火山…日本国外の火山（キラウエア、マウナロアなど）、噴火の写真など。
- 地震…地震波の伝わり方、プレートのようなすなど。被害写真などは扱いに気を遣う。
- 動物…内臓のつくり、いろいろな動物の例など。
- 天気…空や雲のようす、天気図、衛星からの雲画像など。
- 遺伝…遺伝子の顕微鏡写真、遺伝の例など。

8割程度の先生が2分野を中心に使用されています！

③ デジタルコンテンツの使用率・使用方法



具体的な使用方法や効果は？

- 実物を用意するのは難しいが、変化を動画で見た方が分かりやすい内容（植物の成長、火山、天気、天体など）について使用する。
- 実験方法を実験前に見せて参考にさせたり、うまくいかなかった実験のまとめとして見せることもある。
- 危険な物質を使用する実験の動画を見せる。
- 動画を見せると生徒の顔が前を向き、説明が1回で済む。

苦労する点は？

- 素材を集めるのが大変。
- 電子黒板が学年に4台しかないため、空いている時しか使えない。
- デジタル教科書の入ったPCが学校全体で6台。1学年8クラスなので、毎時間使いたくても占有は厳しい。社会、英語、理科で取り合いになる。

年度	都道府県	題材
H29年	島根	【花粉症】 スギの木から離れたところにおいてもスギの花粉症を発症する理由 (→スギの花粉は風に乗って運ばれるから)
H28年 H30年	兵庫 香川	【食物中の消化酵素】 タンパク質を主成分とするゼリーに大根おろしとパイナップルのしぼり汁をかけた際、どちらもゼリーがとけたことから、大根おろしとパイナップルが消化を助ける食物の種類を推測 (→どちらも肉の消化を助ける)
H29年	大分	【飛行機の往復の時間差】 低気圧の移動の原因と共通する、東京-大分間を往復する飛行機の、行きと帰りにかかる時間が異なる原因 (→偏西風の影響)
H30年	山形	【ガスもれ警報機の設置場所】 都市ガス用のガスもれ警報器を部屋の高い場所に設置する理由 (→都市ガスは空気より密度が小さいから)
H28年	福井	【吸盤にはたらく大気圧】 吸盤にはたらく大気圧の向き (→吸盤の外側からあらゆる向きにはたらく)

クローズアップ入試問題

新学習指導要領でも重視されている日常生活や社会との関連は、入試問題でも活用問題として出題され、近年増加傾向にある。どのような題材が出題されているか、特徴的な問題をいくつか紹介する。

観察記録 4. 3月1日 15時 晴れ

学校の周辺にはスギの木があります。スギの枝先に黄色い粒状の実のようものがついていたので調べると、スギの花であることがわかりました。枝をゆらしてみると花粉がたくさん出てきました。最近同じクラスの②ハヤトさんが教室で何回もくしゃみをしているので、スギ花粉症かもしれません。

4. 下線部②のように、スギの木から離れた教室にいてもスギの花粉症を発症する人がいる。ところが、サクラの花粉症はほとんどの場合、サクラの木に近づかなければ発症しない。このことを参考に、スギ花粉の運ばれ方について、簡単に説明しなさい。



全ての教材で 移行措置完全対応!

新学社のワークブックで 授業のふり返りを効果的に!

新企画!

プリント生成システム
「らくらくプリント」で、
働き方改革もお助け!

国語

新・基礎の学習 国語



社会

社会の
自主学習



数学

数学の問題ノート
数学の基本ノート
スパイラル式 パターン演習



理科の自主学習
基礎の学習 理科
理科ノート

理科



英語

ジョイフルワーク



新刊!

数問ノート システム

- ワークとプリントをセットにしたシステム教材!
- 持ち運びや管理に便利な前期・後期の2分冊方式!



※表紙デザインは制作中のものですので、変更になる場合があります。

次号 予告

2019年9月頃 発行予定

Sing Vol.15

特集 入試の変化と最新高校入試情報 など
連載 教材活用講座

次号も、すぐに役立つ最新教育情報を満載してお届けします!

発行人/中川栄次 編集人/内藤祐宏

編集・デザイン/新学社編集部, 株式会社 ひでみ企画 印刷/大平印刷株式会社

発行所/株式会社 新学社 TEL. 075-581-6111(代表)

京都 〒607-8501 京都市山科区東野中井ノ上町11-39 東京 〒162-0841 東京都新宿区払方町14-1

新学社ホームページ → <https://www.sing.co.jp/>

◆本書の内容についての責任はいっさい新学社にあります。お問い合わせは、当社編集部へお寄せください。

◆本書の全部または一部を複製・転写して使用すると著作権法違反となり罰せられます。

表紙写真...©BLOOM image / amanaimages

学力向上・確かな教材

日図協

(社)日本図書教材協会会員